

大切な忘れ物を届けにきました

月刊 なぜ生きる

11

令和3年
(2021)



もし、父の会社に入社していなかったら



日本薬興株式会社
代表取締役社長

前田 園子

七月号の『月刊なぜ生き

る』の新企画、「中仕切り」

を拝読いたしました、大変感

銘を受け、私の中仕切りはい

つだったのだろうと思い、今

までの人生を振り返って考え

てみました。

私は現在、東京都中央区東
日本橋で日本薬興株式会社と

いう一般医療機器や健康食品、
健康雑貨の製造販売などを行
っている会社を営んでおりま
す。

会社の名前はお聞きになっ
たことがないかもしれません
が、ひよっとしたら商品はお
使いになったことがある方も
いらっしゃるかもしれません。
主力商品としては皮内針や有
機ゲルマニウムなどを粘着剤
に配合したテーピング用テー

プを製造しております。

もともとは平成七年より父
親が経営していた会社でした。

私の中仕切り

私が入社するきっかけとな
ったのは、東日本大震災が起
こった直後に父から、「下の
子供が小学生に上がって送り
迎えもなくなったので、ちょ
うどいい機会じゃないか。パ
ートでもかまわないぞ」と誘
われたのです。

実は、東日本大震災が起き
た日、皆様もご存じのとおり
東京も交通機関が止まり、タ
クシーも、宿泊するところも
なく、携帯電話もつながらな
い状態でしたので、仕方なく
父は東日本橋から中野の自宅

まで歩いて帰ることになりま
した。それが影響したのか、
少し前から歩くとき軽いしびれ
や痛みが出ていた足がさらに
悪化してしまい、長い距離の
続けての歩行が困難になり、
病院で検査を受けたら腰部脊
柱管狭窄症と診断されたので
す。母をがんで早くに亡くし
ていたので父の毎月の病院通
いも私が連れていくことにな
りました。

そんなこともあり、父の容
態やこれから先の会社の存続
のことも心配でしたし、私の
経済的観念から、パートでも
よいという条件だったことも
あり、それならお手伝いして、
親孝行させてもらうことにし
たのです。

私の中仕切りはこの会社と

の関わりができたこの時だったのではないかと思います。

初めは、以前勤めていた会社を結婚退社してから十年間、専業主婦をしていたので、いきなり社長の娘が入社するのとは社員の方々にはどう思われるのか、きちんと与えられた仕事ができなくなるのかどうかなど不安だらけでした。

父からは、とにかく先輩社員の方を立てて、指示されたことをやればいいと言われ

ましたが、先輩方が気を遣われたのか何も指示されることはありませんでした。

いくらパートとはいえ、もしよせん、社長の娘という目で見られてしまったのでしょうか……。

私が、「何かお手伝いできることはありますか？」と声をかけても、特になんと言われず、とりあえず事務所の掃除や書類の整理、荷造り、経理の手伝いなど、自分

のできることを探して過ごしていました。もともと、前の会社では経理課にいたのですが、会社の経営状況はとも気になっていました。何とか売り上げを増やさなければいけない、ただ会社にいるだけでは負担になってしまうだけなので心苦しかったです。

パートと言われて入社しましたが、父の歩行のサポートをするために、実際は朝夕方まで定時で働いていました。

時間も持て余していますし、毎日そんなことをしていても仕事覚えられないので、「業務内容や商品のことも詳しく教えてください」と先輩方にお願ひしたのですが、「今は震災の影響で流通が止

まっているから、そんなに慌てて覚えなくていいよ」と言われてしまいます。

いつまでたっても教えてもらえそうにないので、自らインターネットを使って商品の成分や効果効能について調べ、会社にある資料を探して自分なりに勉強して少しずつ覚えていきました。

やはり、現実厳しく、社員の方々にそう簡単には快く受け入れてはもらえないのかなど、悲しく思うこともありましたが、自分で調べているうちに、いろいろなことが分かってきて、その結果、自社商品のよさや、成分の効果効能を理解することができました。

このおかげで忘れかけてい



日本薬興株式会社の商品

た、時間はかかっても分からないことは自分で調べてこそ、頭に残りやすく忘れにくいものだということを思い出ししました。ある意味では先輩方のおかげですね！

それに仕事をするにしながら、私が知らない父の違う一面も知ることができ、家族のために頑張ってくれていたのだと改めて感謝することができました。

新たな挑戦

それからは、新たに分かりやすい商品の説明書やプレゼン資料などを作り直したり、見積書を作成したりと、自分の仕事を見つめることができ、会社に行くのが楽しくなっ

きた頃、そんな私の様子を見ていた父が取引先に紹介し始めたのです。

そして、入社して半年後には商品企画に携わり、営業の名刺を持たされて、メインの取引先の担当を任せられ、外回りや出張にまで行かされることになりました。

新しいことに挑戦する時は、怖さや緊張、不安がつきものです。

でもそれ以上に大役を任せられたことの喜びも大きく、単純な私は、ワクワクしながら「会社のために頑張らなくちゃ！」とやる気でいっぱいでした。

でも……その気持ちとは裏腹に、私の心の中どこかで、何だか複雑な気持ちもありま

した。

というのも、子供たちがまだ小さかったので、長期出張になると、「ちゃんと朝起きて学校に行けたかしら」「兄妹げんかはしていないかしら」「寂しい思いをさせていないかしら」といつも心配で、心苦しく、葛藤の繰り返しでした。

しかし、子供たちは仕事をしている私の姿を見て、「ママは一生懸命お仕事して偉いね！」「私もお手伝い頑張るね！」「お家のことは心配しないで大丈夫だよ」「お仕事頑張つてね」と言ってくれたのです。

その言葉を聞いて、思わずこぼれそうな涙をこらえ、笑顔で「ありがとう！頑張る

ね」と答えました。知らない間に子供たちの自主性が育っていたのですね。

その言葉を聞いてこんなことを思い出しました。

もし、父の会社に入社していなかったら、子供のためと言いながら、自分の理想を押しつけ、思いどおりにならなかったら、毎日、子供たちを怒っていたのかもしれない。たな。よくよく考えたら、私が子供たちに残せるもの、与えられるものは自分のわずかな知識や経験を伝えていくことだけだっただろうなあ……。とお母さんが生き生きとしている姿を見ることが子供にとっていちばんうれしいのかもしれないですね。

結果的にはよかったのでし

ようが、やはり、家を留守にするたび、「パートでかまわないよ」という話は何だったのだろう？ 父にまんまとだまされた！」心の中では反感を抱くことがしばしばありました。

だけど、子供たちも応援してくれているし、父にもそれだけ期待されているのだと自分に言い聞かせ、できない営業も私なりに努力し、会社の先輩方にも認められるよう、日々精進いたしました。

少しずつ営業にも慣れ、自分に自信もついてきて、仕事 が楽しくなり、業界の展示会に頻繁に出掛け、探してきた商材で新商品を作ることもできるまでになりました。

父も定期的なブロック注射

などの治療の効果で、徐々に歩行時のしびれや痛みも落ち着いてきたので、これからは父に会社運営など、いろいろと教えてもらいながら、父を助け、会社発展に寄与したいと思っていました。

しかし、そんな矢先に、父は脳梗塞で倒れて入院してしまっただけです。

それは私が入社してから三年八カ月めのことでした。

倒れた時は、父の一日も早い退院を願い、入院中は父に会社の心配をさせないよう営業に力を入れ、より一層頑張りました。

父も三カ月間のリハビリを経て、もうすぐ退院と喜んだのもつかの間、再び脳梗塞を起こし、体に麻痺が残り、入

院の長期化を余儀なくされてしまったため、内部では心配の声もありましたが、平成二十七年六月に私が代表取締役就任いたしました。

今までに経験したことがないほどの精神的な疲労がありましたし、さまざまなプレッシャーがのしかかってきて、商品開発や営業以外に数字や社員の管理もしなくてはならないので、ますます忙しくなり、仕事で手一杯になってしまいました。

それでも入院している父の麻痺が早く治って、経営についてのお話をしてもらいながら一緒に頑張っていきたいという一心で、出張や商談で時間が取れない日以外は、会社の報告を兼ねて、父の容態を

見に病院に通っていました。

そのため、家に帰るのが夜八時、九時と遅くなり、子供たちに夕食を待たせることになつてしまい、本当にかわいそうなことをしたと思つていま

す。
それから八カ月後、私の願

自立への道

東日本大震災から十年がたち、震災の犠牲者の方々、残されたご家族の皆様には、改めて心よりお悔やみ申し上げます。

私自身、大きく人生の変化が起きた十年でした。



現在、私が会社経営をして

ようと思っています。

いられるのも、日々支えてく
れている家族や親戚^{しんせき}、社員、
友人、それから取引先の方々、
弊社^{へいしゃ}商品を愛用してくださつ
ているお客様のおかげだと、
常に感謝しております。

まずは、自分の目標をより
明確にして進んでいき、でき
ない理由ではなく、できる方
法を探していきます。

今後、私はそんな皆様^{みなさまがた}方や、

経験不足からできないこと
が多くても、「信頼^{しんらい}できる、
任せられる人」「一緒^{いっしょ}に仕事

旅立った父、母、今年の五月
に旅立った弟に恥^はじないよう

をした人」を目指していき
たいと思っています。

に、この先の生き方を改革し

とはいっても、時には自信

のなさや不安に負けてしまう
かもしれない。仕事や人生
には間違いや失敗、挫折^{ざせつ}に対
して恥^はずかしさや失望を感じ
る時があります。

それから学び、さらに前に
進むためには、まず自分を許
し、挫折^{ざせつ}や失敗は誰^{だれ}にでもあ
るということを念頭に置くこ
とが必要です。

これは自分を向上させる過

程と成功への道のりにはつき
ものだと思っています。常に
折れない心を持っていたい。
目標に添^そっていて、今日でき
る具体的な行動を、少なくと
も一つ見つけて、今やれるこ
とは何であるかを考え出すよ
うにしたいと思います。

そして、自身の改革ととも
に、社員と力を合わせて、健
康のサポートパートナーとし
て、お客様のニーズに合った
商品の開発に、より一層力を
入れ、健康で笑顔^{えがお}を絶やさな
い人生を過ごせる人が一人で
も多くなることを目標に、
日々挑戦^{ちうせん}し続けていきたいと
思います。

この先あと何回中仕切^{なかじき}りに
出合えるか楽しみです。